

## 2 生涯学習振興のための基本的課題

### (1) 身近で、手軽に学べる生涯学習

#### (生涯学習に関する意識の高揚)

生涯学習は、昭和40年(1965年)に生涯教育がユネスコで提唱されて以来、その必要性が世界で広く認められるようになり、我が国においても急速な社会の変化の中で、人々の学習志向が高まるとともに、その振興が必要となっています。

京都府の生涯学習の調査によると、約半数の府民がなんらかの形で生涯学習に取り組んだことがあるという結果がでており、生涯学習に取り組みたいという人は9割に及んでいます。希望するものとしては、①健康を維持する、②伝統的な習いごとをする、③趣味を豊富にする、④職業上の知識、技能を身につけるなどが多くなっています。

京都府においても、こうした新しい時代の要請に対応して生涯学習のための気運をより一層高めていかなければなりません。特に、一人ひとりの府民が生涯学習についての認識を高めるとともに、学校はいうまでもなく、家庭、地域、職場などの日常活動の場において生涯学習への理解が深められることが重要です。

その中でも、家庭は、生涯学習の原点です。近年、その教育力が低下していると言われていますが、私たちの生活の基盤として、生きていく能力や人間らしい思いやりのある心、心豊かな人間形成の場として、その重要な役割を再認識し、学校、地域社会と並んで教育力の充実を図ることが大切です。

地域社会は、過疎・過密の進行や価値観の多様ななど、社会が大きく変化している中においても、自然や人々との触れ合い・交流のための日常的な学習の場であり、青少年、女性、福祉、環境保全等をはじめとする様々な団体の地域活動を通じて、人々が地域社会との関わりを深めていくことが大切です。

社会教育関係団体をはじめ、文化、スポーツ、福祉、商工、農業などの各種の生涯学習関連団体や民間団体は、生涯学習振興の視点に立って学習機会を充実するなど、重要な役割があります。

企業、職場においては、労働時間の短縮、職業能力の開発や向上、生涯の生活設計、ボランティア活動などが広く行われることが望まれます。

京都府や市町村などの行政は、各種民間団体、企業等と協力し、生涯学習を支援する立場から、その全般的な学習環境を整備していくことが求められています。

また、民間教育事業との連携を図りながら、地域に合った学習機会の充実を図っていくことも大切です。

#### (生涯学習のための環境の整備)

生涯学習に関する関心が多様化する中で、京都市を中心とする南部地域では生涯学習のための施設や機会の一層の充実が、また、京都府の北部・中部地域では身近に利用しやすい施設の充実や学習機会の確保が府民の強い要望となっています。

生涯学習は、自ら考え、工夫し、取り組むことが基本ですが、私たちの積極的な学習意欲に対して、各地域の条件に応じた学習しやすい環境が整っていること





が必要です。

それとともに、私たちの生涯学習を支援する社会的な気運が助長され、人生のどの段階においても必要に応じ、楽しく、系統的に学べる学習の機会や施設の整備を進めるとともに、学習の成果を評価したり、成果を活かした発表や活動の機会を増やすなど、学んだことが活かせるようにしていくことが大切です。

また、一人でも多くの府民が、身近で、手軽に楽しく生涯学習に取り組めるよう学問的な内容に偏らず、スポーツや趣味活動をはじめ幅広く余暇を楽しむことのできる学習内容や機会が必要です。また、だれもが「知ること」や地域活動を楽しみと感じ、気軽に参加できるよう諸条件が整えられていることが大切です。

したがって、生涯学習に関係する行政、各種民間団体、大学、企業等が、それぞれ協力を深めながら、現在の教育や学習のあり方を見直しつつ、各地域の府民の要望に応じて、生涯学習にふさわしい様々な環境や風土を整えていくことが大切です。

## (2) 社会の変化に対応する生涯学習

これまで、私たちは学校教育や社会教育を通じて基礎的な学力や知識、教養、技能等を身につけてきましたが、科学技術の急速な発達や情報化、国際化の進展などの社会の変化に伴い、これまで得てきた知識だけでは不十分となり、職場や社会での対応も困難になってきています。

今や私たちは、人生のどの段階においても新しい社会的知識、教養、技能等について、自ら学習すること

が欠かせなくなってきました。

特に、日常生活の中に人権をしっかりと根付かせるための基本的人権にかかわる問題をはじめ、人間と自然との調和や地球環境問題、生産中心から生活中心への生き方の転換、更には地域や家族とのかかわりを考えた生き方など、私たちのまわりにある社会的な問題について考えることが重要になっています。

こうした学習は、これまで学校教育や社会教育を中心に大きな成果をあげてきましたが、今後更に、これらを生涯学習として発展させ、取り組まれることが必要となっています。

一方、私たちの職業についても、経済や産業の変化に対応した専門的知識や技術を大学や職業教育機関などで再習得することが重要となっています。

したがって、今後は、学校や家庭、地域、職場などのあらゆる場所において手軽に学べる学習環境や年代別、職業別等の多様な学習機会を整えていくことが大切です。

また、情報化社会のもとで生涯学習は大きな影響を受けています。各種の情報自体が生涯学習の重要な教材となり、情報機器は貴重な学習の手段となりつつあります。情報化に関する生涯学習を発展させるためにも、とりわけ情報を受け取る側の立場から考えて利用しやすい学習情報の提供方法や情報網を考えていく必要があります。